

宮城から、みんなで考える、温暖化対策。

エコdeスマイル コンテスト in みやぎ 2008



ほくらに笑顔をくれる
あなたを表彰したい。

新しい仲間ができました。新しいアイデアが見つかりました。新しい感動がありました。
温暖化を止めたい人たちが集まったら、その熱気と笑顔は、去年の2倍でした。
そんな、2年目のエコスマです。

2008 報告書

平成20年度環境省特別会計委託事業
温暖化対策「一村一品・知恵の環づくり」事業

センター長あいさつ

「地球を守る」新たな可能性

本年も質量ともに全国トップクラスの68件の応募がありました。入賞20件のプレゼンテーションはさすがに粒ぞろい。いずれも、甲乙つけがたい充実したものでした。関係された皆様に深く御礼申し上げます。

特長は、野菜くず、動物園の象の糞、ペットボトルとキャップ、牛乳パック、カキ殻、紙、廃食油、仙台七夕の竹、廃材など、捨てられてきたものの有効利用をはかる取り組みが目立ったことです。リユース、リサイクルの精神の浸透ぶりと新たな可能性を感じました。廃棄物の減量はゴミ減量につながり、焼却分が減ることで温暖化ガスの削減をもたらします。

第2の特長は、個人・一般家庭の応募が多かったことです。全体の半数近い33件の応募があり、とくに印象的な4件が入賞し、プレゼンテーションにのぞみました。個人や家庭でできることには限界があるように思われがちですが、節電や熱を逃

がさない工夫など、地道な積み重ねが心を打ちました。使用済みのペットボトルに素敵なカバーをつけて、センスよくフラワー・アレンジメントにリユースする取り組みは、とくに会場を魅了しました。

第3に、サービス業からの新しいチャレンジが印象的でした。「夢」とサービスを提供する温泉旅館や雑貨店にとって、節電やムダを省く努力は、一見顧客のニーズを損ないかねません。しかしホテル佐勘と荒岩本店の挑戦は、このジレンマに真っ向から果敢に取り組んだきわめて意欲的なものです。サービス業の新しいあり方を提示してくれました。



ストップ温暖化センターみやぎ
センター長 長谷川 公一

CONTENTS

センター長挨拶	1
選考委員紹介	2
History of エコスマ 2008.....	3
応募者リスト/活動地域マップ.....	5
受賞団体賞会 最優秀賞/優秀賞 ..	7
特別賞	10
入賞	11
参加賞	14
メディア・広告展開一覧.....	26



Thank you!

エコdeスマイルコンテスト in みやぎ 2008 みやぎ選考委員会名簿



●委員長
長谷川 公一
財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON) 理事長
ストップ温暖化センターみやぎ センター長
東北大学大学院文学研究科 教授



遠藤 智栄
プランナー・NPOアドバイザー



佐伯 一麦
作家



菅谷 匡
みやぎ環境カウンセラー協会 理事
宮城県地球温暖化防止活動推進員



高橋 一夫
東北労働金庫 顧問



高橋 総一郎
宮城県環境生活部環境政策課 課長



中田 俊彦
東北大学大学院工学研究科 教授



西川 善久
河北新報社 取締役編集局長



藤井 黎
前仙台市市長



北條 祥子
尚絅学院大学生生活環境学科 教授



盛 朋子
株式会社宮城テレビ放送



山田 晴義
宮城大学 副学長

ストップ温暖化センターみやぎ

宮城県地球温暖化防止活動推進センター

1999年「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき環境庁長官の指定を受け、全国地球温暖化防止活動推進センターが設立。2000年に財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワークが宮城県知事の指定を受け、ストップ温暖化センターみやぎ(宮城県地球温暖化防止活動推進センター)が誕生しました。
宮城県における地球温暖化防止活動の拠点として、環境学習や調査研究、地球温暖化防止活動推進員研修などを行なっています。



財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク
Miyagi Environmental Life Out-reach Network

財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク——通称「MELON」。誕生のきっかけは、環境の保全と持続可能な発展をテーマに179カ国の政府首脳や自治体、NGO関係者が集まった1992年の地球サミットです。世界ではこんなにたくさんの人たちが環境を考えている。みやぎでも環境を考え、地球を守りたい——そんな想いから、翌93年に県内5つの協同組合が母体となって、多くの市民や研究者、企業、団体でつくられた環境NGOです。毎日のくらしの中から、地域から、地球でくらす私たちにも取り組めることを広げようと、環境保全活動を進めています。

History

History of エコdeスマイルコンテスト in みやぎ 2008

宮城県で年々増加傾向にある温室効果ガス排出量。特に民生・家庭部門（家庭・商店・オフィスなど）は90年比で04年には59.6%も増加しており、家庭や地域・企業などでの積極的な取り組みが求められています。

そこで、ストップ温暖化センターみやぎでは、地域の地球温暖化対策のシンボルとなる取り組みを公募し、それらの事例を他の地域や人々に紹介することで「温暖化防止の知恵の環」を広げていくことを目的にエコdeスマイルコンテストを開催しました。対象は、宮城県内で行われている地球温暖化防止につながる“エコ”

な取り組みで、どなたでもご応募できます。

その結果、2年目となる今年は、個人や団体、企業、自治体など、昨年を越える68件ものバラエティに富んだ活動が集結しました。すべてがオリジナリティ溢れ、工夫が凝らされたすばらしい取り組みです。

その中から、第1次選考（書類選考）を行い、議論を重ねた末に20件が通過となりました。その20件が宮城県大会（最終選考会）にて公開プレゼンテーションを行い、全国大会に出場する宮城県代表を決定しました。

昨年のエコスマ

第1回目の開催だった昨年。61件のご応募の中から宮城県代表となったのは、塩釜市団地水産加工業協同組合の「魚のまち塩釜地域エネルギー好循環形成事業」です。生産量日本一を誇る揚げかまぼこの製造過程で発生する大量の廃食油からBDFを精製、地域の車へ導入が進んでいます。また、渡船での運航実験や、学校で手作りBDF実験など地域が一体となり大幅なCO₂削減を実現しています。

全国大会では「特別賞・バイオマス賞」を受賞!! 全国的にも注目を浴び、マスコミ取材や視察が増えたそうです。

また、ご応募いただいたすべての取り組みはホームページで紹介する他、小冊子にまとめ、マスコミ・市町村・公共施設・環境団体など広く配布し、紹介しました。



昨年度ポスター 07年県大会受賞者の皆さんと

2008 7月 JULY

募集

7月1日～9月12日

10月 OCTOBER

第一次選考

10月3日

11月 NOVEMBER

宮城県大会の様子

2009 2月 FEBRUARY

知事訪問

2月2日

全国大会

2月14日～15日

1. 募集 7月1日～9月12日

公共施設や市民センター、図書館、自治体、環境団体などにポスターやチラシを掲示。また、新聞やラジオなどマスコミを通じて募集を呼びかけたところ、68件ものたくさんの取り組みが集まりました。中でも今年は個人からの応募が約半数の33件と、関心の高まりが見られました。

2. 第一次選考 10月3日

さまざまな分野の方から成る選考委員会。すべてのエントリーシートを読んだ委員が、地域との連携や波及の可能性など総合的な観点から、議論の末に20件を決定しました。

3. 宮城県大会 11月8日
(最終選考会・表彰式)

仙台国際センターで開催した宮城県大会では、20件による7分間の公開プレゼンテーションが行われました。出演者、ボランティア、尚絅学院大学生生活環境学科学学生を含め300名を越える来場者の中、限られた時間の中で寸劇や実演など工夫を凝らした発表が行われ、会場は終始大盛り上がりでした。また、会場後方のパネル展示では、出場者同士や来場者との交流があり、活動の環の広がりが生まれていました。

※ MELON商品券

商品券の金額の一部がMELONの環境保全活動と組織作りに活かされます。宮城県内の日専連加盟店およびみやぎ生協各店舗でご利用いただけます。

そして、最優秀賞（宮城県知事賞）には、仙台市北六番丁小学校6年生の「温暖化・ぼくらがとめる・まかせとけ!～わたしたちのエコタウン宮町2008～」が決定し、宮城県代表として全国大会に出場します。その他に、優秀賞9件・特別賞1件・入賞9件が決定。最優秀賞と優秀賞には副賞として5万円相当のMELON商品券が贈られました。

4. 知事訪問 2月2日

最優秀賞（宮城県知事賞）を受賞した北六番丁小学校6年生。なんと村井嘉浩知事への訪問が実現し、直接受賞の報告と全国大会への決意表明を行いました。全国大会で披露するプレゼンテーションも実演し学校での取り組みを説明、知事から激励のお言葉をいただきました。

5. 全国大会 2月14日～15日

全国47都道府県の代表が集結した全国大会「ストップ温暖化 村一品大作戦2009」。2日間のべ1,200名の来場者とマスコミの中、北六番丁小学校6年生代表4名はわずか4分間で、宮城県代表として最高のプレゼンテーションを披露! 全国でのエントリー総数1,130件の取り組みの中で、見事「審査員特別賞・広げよう緑のカーテン賞」を受賞しました!!



最優秀賞に贈られたトロフィー



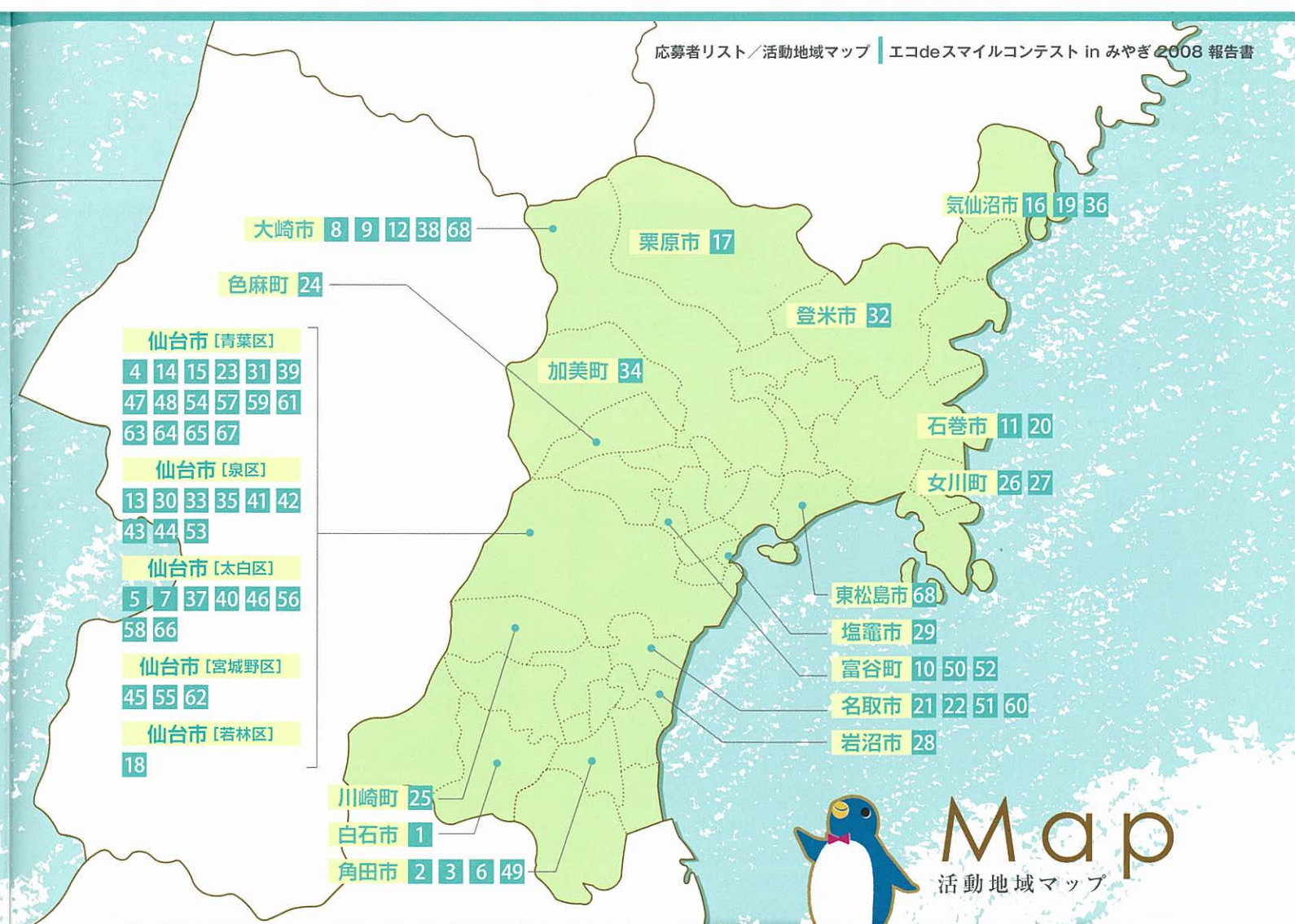
環境大臣や さかなクンも駆けつけました

List 応募者リスト



エントリー番号・プロジェクトタイトル	掲載ページ
1 家計にやさしいエコ 個人	p.14
2 “ミネ幼稚園”の(平成19年度)環境報告書 宗教法人長泉寺ミネ幼稚園	p.14
3 我が家の「暖房改善と省エネ」大作戦 山崎義幸	p.8
4 ふろしき七変化deエコ 個人	p.14
5 ゾウ糞エコサイクル授業 仙台市八木山動物公園	p.11
6 長泉寺の《仏式キャンドルナイト》 宗教法人 長泉寺	p.14
7 見て聴いて作って楽しいエコグッズ 小野寺 公	p.11
8 日常的なエコdoへの取組み 大場 百合	p.15
9 ガソリン代節約・我家の取組み 個人	p.15
10 農地の再生利用 協業組合富谷環境	p.15
11 カキ殻を活用した水質浄化設備検討事業 旭洋設備工業株式会社	p.10
12 くるまのクーラー stop 個人	p.15
13 環境にやさしい事務センターを目指して フルデンシャル生命保険株式会社 ドライデンカスタマーセンターエコプロジェクト	p.16
14 クルクルクルリサイクルStop! 温暖化! 学校法人 旭ヶ丘学園旭ヶ丘幼稚園	p.10
15 無理なく楽しくできるエコ 個人	p.16
16 もったいない! あじ蔵・自然食・手作り料理	p.16
17 ぼくのコーヒーセレクト 個人	p.16
18 しない善よりする偽善 個人	p.17
19 「エコも積もれば明るい未来」 (一人ひとりの地道な活動が地域のエコ活動の明るい未来) 茂木正太郎	p.17
20 天からの贈り物 鈴木貞夫	p.17
21 地域の人々と共に生活できる場を求めて! 通所更生施設るばーと	p.10
22 おしゃれなエコガーデニング 高橋恵美子	p.9
23 ちゅら箸(赤箸)からマイタッパーへ 飲み食べ事屋「ちゅら」	p.17
24 色麻町平沢交流センター“かつぱのゆ” バイオマスエネルギー供給事業 B. エネルギーサービス株式会社	p.18

エントリー番号・プロジェクトタイトル	掲載ページ
25 「川崎-仙台薪ストーブの会」に おける萌芽更新活動 特定非営利活動法人 川崎町の資源をいかす会	p.9
26 アサガオの緑のカーテンとプチプチシート の相乗効果、ゴミ分別徹底の取組み 松川八千江	p.18
27 マイ箸スタンブラリー 個人	p.18
28 着れなくなったYシャツでエコバッグを作る 個人	p.18
29 カット野菜残渣が作る “めぐみ”ネットワークの輪 ミヤギ・エコグリーンファームネットワーク	p.11
30 ・生ごみから水をしぼり出す ・人の健康と地球を守りましょう 長井 笙	p.19
31 我が社のゴミ減量プロジェクト 荒岩本店	p.8
32 無駄なく使おう森林資源! 登米町森林組合	p.9
33 私の省エネ 個人	p.19
34 みどりのカーテンプロジェクト 加美町役場町民課	p.19
35 大規模市民マラソンの実施&ノーカーデー 竹保 正之	p.19
36 エコ・フェスタ ～みんなで作るエコシティ気仙沼～ エコ・フェスタ実行委員会	p.12
37 お客様目線のエコ! 佐勘グリーンプロジェクト 株式会社 ホテル佐勘	p.8
38 つくる人と食べる人をつなぐ 食育NPO「おむすび」	p.20
39 温暖化・ぼくらがとめる・まかせとけ! ～わたしたちのエコタウン宮町2008～ 仙台市立 北六番丁 小学校 6年生	p.7
40 3Re:n 3Re:n	p.20
41 自然に 吉田 勲	p.20
42 ラジオで見せる? エコ・ヒント! 小林 純一	p.20
43 命をつなぐ最後の切札「太陽光発電」 小笠原 博	p.21
44 1日エコライフ みやぎ生活協同組合	p.21
45 「雨水パッコン」取付けて雨水利用しませんか? 株式会社 三創	p.21
46 私に出来る環境学習・省エネ作戦 ～あなたもやってみよう!～ 三浦 高明	p.21



エントリー番号・プロジェクトタイトル	掲載ページ
47 とにかくやってみる作戦 個人	p.22
48 わたしの省エネ術パート2 個人	p.22
49 かくだ共通エコポイントカード事業 角田市	p.12
50 何でもエコエコ 個人	p.22
51 家族みんなに優しい 高気密・高断熱 ～FPの家～ (有)角栄ホーム	p.22
52 家族で丸ごとエコ 個人	p.23
53 エコキャップand 七夕で二酸化炭素削減計画 東北生活文化大学高等学校 eco project	p.7
54 水道代の節約・電気代の節約 安梅祐紀子	p.23
55 しあわせのおすそわけ 「やさしい“やさい”」プロジェクト NPO法人 Team Being	p.12
56 出来るところから始める環境への思いやり 東和レジスター仙台販売株式会社	p.23
57 広瀬川1万人プロジェクト 広瀬川1万人プロジェクト実行委員会	p.23
58 実践! お財布にやさしい省エネ♪ 個人	p.24

エントリー番号・プロジェクトタイトル	掲載ページ
59 ひとりからできること 個人	p.24
60 今野家エコ実践計画2008 今野勇	p.24
61 一つずつ、一歩ずつ。省エネ実践 ～実践計画と目標で家族で挑む～ 中屋 猛	p.13
62 らくらく実践エコライフ 個人	p.24
63 マクロビオティック料理でココロと カラダの健康と地球の健康を取り戻そう Mother's kitchen料理教室	p.13
64 学生発! 身近なところから 〈マイバッグ・紙資源リユース活動〉 RNECS	p.25
65 「科学的思考力」の育成に 主眼を置いた環境教育の実践 NPO法人 natural science	p.13
66 広げよう笑顔の輪! チーム・スマイルメーカーズ チーム・スマイルメーカーズ	p.25
67 やさしく、おいしく、無駄なく、健康に… 真・海(味)・菜・食 しん	p.25
68 フリーマーケット推進普及活動& X-oneのサポート事業 G.S.A宮城石巻・東松島チーム G.S.A宮城大崎チーム	p.25

Introduction 受賞団体紹介

最優秀賞

Congratulations!



宮城県知事賞 温暖化・ぼくらがとめる・まかせとけ! ～わたしたちのエコタウン宮町2008～

実践者 仙台市立北六番丁小学校 6年生

実践期間	活動地域	参加人数
2007年4月～現在	仙台市青葉区	46名



壁面緑化



ソーラーカーの実験



エコ水族館の模型製作



牛乳パックのエコバッグ

『温暖化・ぼくらがとめる・まかせとけ!』を合い言葉に、今年の6年生は総合的な学習の時間を利用して地球温暖化問題に取り組んでいる。

学校では、先輩たちが完成させたエコロジィハウス・梅田川エコ水族館を引き継いで運営してきた。小屋のまわりをアサガオで壁面緑化にして、梅田川から取ってきた魚やザリガニを中で飼育している。地球温暖化問題についても、NPOから話を聞いたり番組を見たりしながら調べてきた。家庭では、夏休みを利用し

てストップ温暖化のアイデアをそれぞれの家で実践してきた。地域では、東北工業大学・近藤研究室と宮町商店街の協力で、レジ袋削減などの取り組みを行っていく予定である。

このように、子供たちが主体となって活動し、学校から家庭、地域へとストップ温暖化の輪を広げていくのが、エコタウン宮町2008の活動である。これからの低炭素社会を担っていくのは、子供たちである。どんな価値観をもって思考・判断し、行動していくか、子供たちが大人になったときの姿を想像しながら環境

教育の実践を積み上げてきた。すぐに、二酸化炭素削減の効果を得られるものではないが、将来的には何十倍、何百倍もの大きな効果につながるものと信じている。

Comment 講評 | 長谷川 公一

卒業8年後の2017年夏に、20歳の自分たちが母校を訪れるという面白い設定で、壁面緑化をはじめ、地域・商店街・大学などと結びつけたエコスクールの多面的な取り組みを紹介。温暖化が子どもたちの未来にとって切実な問題であることを説得的に示してくれました。

連絡先	代表者 (校長) 白井 泰雄 電話 022-222-5086	担当者 亀崎 英治 FAX 022-221-5826	住所 〒980-0004 仙台市青葉区宮町4-4-17 URL http://www2.sendai-c.ed.jp/~kitaroku/site0001/index.html
-----	-----------------------------------	-------------------------------	---

優秀賞 [9 団体]



キリンビバレッジ株式会社賞 エコキャップ and 七夕で二酸化炭素削減計画

実践者 東北生活文化大学高等学校 eco project

実践期間	活動地域	参加人数
2008年7月～現在	仙台市泉区	6名

私たちが行っている活動は、「キャップで二酸化炭素削減」です。仙台七夕への出展のお話をいただいたのはいいが、特別な技術を持っているわけでもなく、初めての七夕飾りづくりに思案する日々をおくっていました。「普通の七夕飾りではつまらない!」というどうしても譲りたくなかった想いから、エコ×七夕のコラボレーションとして計画を進めることにしました。キャップとレシートで作った吹き流しは、今年度の仙台七夕祭りで特別賞を受賞し、たくさん話題と注目を浴びることができました。

キャップを集めることで得られる効果は、二酸化炭

素を削減するだけではありません。キャップを800個集めるとワクチンと交換することができ、世界中の子どもたちを救うこともできるのです。800個のキャップで1つの吹き流し飾り作ること、趣旨の説明も視覚的にわかりやすくなり、この活動自体に興味を持っていた方々の共感を得やすいものとなりました。

このような計画のように、より様々な人々に、視覚的な情報でエコを浸透させることを考えていきたいです。仙台七夕後も、私たちは校内での「キャップ100万個計画」を目標に現在もキャップの収集を行っています。ただごみが再び利用される Reuse の精神を、仙台市民にとって身

近な形である七夕飾りとして、さらに普及させようと考えています。学校というボーダーを越えて、宮城県単位での活動を広めていくきっかけになればと思います。

Comment 講評 | 藤井 黎

「地域特性」は評価の重要な観点の一つ。仙台という特性に着目した点が異彩を放っていました。身近な材料の再利用というアイデアも「グー」でした。

連絡先	代表者 千葉 礼美 電話 022-272-7511	担当者 倉本 郁哉 メール Seibun-nyuushi@mishima.ac.jp	住所 〒981-8585 仙台市泉区虹の丘1丁目18番地 URL http://www.mishima.ac.jp/
-----	------------------------------	---	---



株式会社サイコー賞 我が社のゴミ減量プロジェクト

実践者 荒岩本店

実践期間	活動地域	参加人数
2007年5月～現在	仙台市青葉区	20名

みちのくEMS認証への取り組みがきっかけで、ゴミ減量・リサイクルの推進を目指し、社内でエコプロジェクトを立ち上げました。社員が一人となって知恵を出し合い、営業ゴミの分別を徹底し、排出量を減らすことができました。また、社員一人一人が環境活動に参加することで、社内のコミュニケーション力が上がり、「荒岩ecoおすすめ品」マークの作成、エコ

バッグの販売及び適切包装の推進など、以前にも増して社員のポジティブ・アクションが増えました。

入口はゴミ減量への取り組みですが、社内の組織、社員の連携が強化されるという、嬉しい「おまけ」が付きました。

Comment 講評 | 菅谷 匡

「荒岩ecoおすすめ品」を始め、社員の皆様一同での共通の話題になり、また数字として実績がさらにその活動に元気を与えている様子が目に浮かびます。



連絡先	代表者 荒井 岩雄 電話 022-222-5466	担当者 荒井 美佐子・畑中 佐知子 メール araiwahonten@s7.dion.ne.jp	住所 〒980-0021 仙台市青葉区中央二丁目6-10 URL http://www.araiwa.jp/
-----	------------------------------	---	---



株式会社伸電賞 我が家の「暖房改善と省エネ」大作戦

実践者 山崎 義幸

実践期間	活動地域	参加人数
2003年4月～2008年3月	角田市	6名(夫婦と娘夫婦及び孫2名)

我が家の寒さ対策として7年計画で行った家屋暖房改善の実施結果を報告します。

【計画手順】
①寒さの原因調査→②対策立案→③費用の検討→④実施順位の決定→⑤対策実行 開始後はすぐに「新規設備投資」に走ってしまう計画でしたが、改善や考案、意識改革の余地はないか原点に戻り再出発しました。

【意識改革】
課題終了後に経済比較すると必ず「省エネ」が発生し、CO₂削減・温暖化防止に貢献できると気づき意識改革がはかれました。

【対策内容】
障子の太鼓張り、ストーブからコタツへの熱誘導装置を

作成、窓にプチプチシートを貼る、扉の内側にカーテン・発泡剤を取り付け冷気遮断、家の外壁に金属質外壁材の取り付け。他、電球型蛍光灯の導入、太陽光発電設置、ガスリン節約など。

【発見できたこと】
①暖房対策実施済みの家屋 活動開始前・活動中・終了後の外気と室内の最低気温を測定し、次の「法的な現象」が存在することがわかりました。
1) 厳冬期 期間: 1月末～2月末
外気と室内の最低気温差(家屋の保温力) = 8.5 ± 0.5℃
2) 冬期 期間: 12月、3月
外気と室内の最低気温差(家屋の保温力) = 10 ± 0.5℃
②暖房未対策の家屋

外気温の影響を受けやすく、室内気温との差が激しく上下し、不安定。(家屋の保温力が低い)

【省エネ効果】
1年間でCO₂ 3,049kgの削減を達成し、効果的に見て「暖房の確保」は極めて効果的な「省エネ」作戦でした。

Comment 講評 | 盛 朋子

どんな小さな点でも改善していく姿勢素晴らしい、特に「原因」「対策」の分析や「効果」についての定量的検証には説得力あり! 見る人を唖らせました。



連絡先	住所 〒981-1504 角田市岡字駅前北8-9
-----	--------------------------



東北電力株式会社宮城支店賞 お客様目線のエコ! 佐勘グリーンプロジェクト

実践者 株式会社 ホテル佐勘

実践期間	活動地域	参加人数
2003年9月～現在	仙台市太白区	325名

5年前は、「お客様のため」という都合のいい言葉で、つけたままの電気や給湯などが館内のいたるところにありました。「お客様にストレスをかけることなく省エネルギーに取り組もう」と「誰にでも出来る!」当り前の「エコロジー」を自分たちで考えながら一歩一歩前進しております。

ホテルの中には数万個の照明があり、どれを消しているのかわからない状態でしたが、全館の電気のルール(愛称=ブルーライト運動)により、お客様をおもてなしするとき点灯していい電気とスタッフが作業を行なう時に点灯できる電気を決めることによって、館内

の全てのスタッフが無駄な電気を消灯できる体制を作りました。

そのほかにも、今までは廃棄物としていた廃食油のBDF化に取り組む企業様への引渡しや、厨房から出るゴミやお客様の食べ残しは「水切り器」で水分を切ってから出し、減量に努めるといった取り組みも現在継続して行なっております。

私たち、温泉旅館は「温泉」という限りある自然の恵みを頂戴し事業をさせていただいております。大きな機械も要らない、自分たちで考えたエコで少しずつでも地球温暖化の抑制、そして環境配慮に取り組んでい

きたいと考えております。

Comment 講評 | 佐伯 一麦

サービスの充実とエコという両立が難しいテーマに取り組んでいるのが素晴らしい。温泉という有限の資源と日々対峙した中で生まれた活動の説得力も重い。



連絡先	代表者 佐勘 勘三郎 電話 022-398-2233	担当者 佐々木 圭 メール k.sasaki@sakan-net.co.jp	住所 〒982-0241 仙台市太白区秋保町湯元字葉師28 URL http://sakan-net.co.jp/
-----	-------------------------------	---	--